

Global Appeal

グローバル・アピール 2007

ハンセン病に対する
スティグマ(社会的烙印)と差別をなくすために



アディ・ヨセップ
(インドネシア)

「すべての人間は生まれながらにして自由であり、
かつ尊厳と権利について平等である」*



ラク・キリ
(カンボジア)

多くの人はハンセン病などもう存在しないと考えている。
しかし、ハンセン病も、それにとまなうスティグマも
差別も、いまだに存在する。



シェフ・アブドゥラヒ・S・ファダ
(ナイジェリア)

ハンセン病患者と回復者に対する差別は、人類の歴史上
もっとも古く、かつもっとも広範に存続してきた
不当な社会的差別の一例である。



神 美知宏
(日本)



ビルケ・ニガトゥ
(エチオピア)

今日もなお、男、女、子供を問わず、何百万人もの人々が、
自らが、あるいは家族がハンセン病に感染したというだけの理由で
社会的、経済的、法的差別に苦しんでいる。



ナタリア・イサベル・
ダ・グラサ・マルサル
(アンゴラ)

ハンセン病は治る病気である。しかし、この病気に対する
誤った認識は依然として根深く社会にあり、ハンセン病患者、
回復者、そしてその家族は、スティグマの対象となり、
過酷な差別を受けている。



クリスチャノ・クラウディオ・トレス
(ブラジル)

病気であることを理由に、人として当然持つべき権利を
否定することはあってはならない。差別は許されない。



ニコール・ホームズ
(アメリカ合衆国)

もう、この問題について沈黙することは許されない。



ヒラリオン・M・ギア
(フィリピン)

私達は皆さんに訴える。この不当な差別をなくすために
私達と共に闘ってくださることを。



P・K・ゴパール
(インド)

私達は皆さんに訴える。



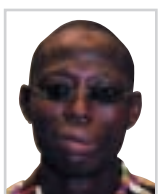
ホゼ・ラミレス・ジュニア
(アメリカ合衆国)

すべての人が自由で、尊厳と権利について
平等な社会を私達と共に築いてくださることを。



パルワティ・オリ
(ネパール)

2007年1月29日



コフィ・ニャルコ
(ガーナ)

このグローバル・アピール2007は、笹川陽平(日本財団会長、
世界保健機関ハンセン病制圧特別大使)の呼びかけに世界各国の
ハンセン病回復者代表が賛同し、共同して署名をしたものです。



ヴァルデノラ・ダ・クルス・ロドリゲス
(ブラジル)



サラト・クマール・ダッタ
(インド)



笹川陽平



卓 友
(中国)

* 世界人権宣言第一条より



Global Appeal 2007

グローバル・アピール
2007

ハンセン病に対する
スティグマ(社会的烙印)と差別をなくすために

